

# 梅之木通信

## 【週末縄文人の会】

第43号 2023.12.10 発行

### 今年の作業も無事終了です、お疲れ様でした

今年は5号棟の完成ばかりか、考古学講座の開催、発掘現場の見学、森のあそびばづくりと新しい企画にチャレンジした一年となりましたが、みなさんも週末縄文人として目新しい発見はあったでしょうか。梅之木遺跡での縄文住居建設計画は5棟で完了ということなので、新たな住居建設の予定はありません。来年度の作業をどうするか？悩ましいところですが、まずは今年一年大きなけがをする人もなく無事に終了できたことを感謝したいと思います。

#### ❖ 森のあそびばで、縄文住居仕様のジャングルジム建設



\*いつものように地鎮祭。

熊さんはいませんが、「ウオー」と神様に降りてきていただいて、作業安全を祈願します。お神酒や塩、お供え物なしの簡易版。



\*林の中なので小さく感じますが3号棟とほぼ同じ床面積を確保することができました。



\*梅之木と違い穴の深さを心配する必要はありませんが、木の根を避けながらの穴掘りです。柱の股に梁を置いてみて、なんとなくイメージができてきました。

\*林の中では火が使えないので宮川沿いの水車小屋まで材木を運び下ろして根元を焼きました。



\*焼いた垂木をまた運び上げて準備完了。年内作業はいったんここまで。お疲れさまでした。



## ❖ 秋まつり開催（11月11日）

宴のメインはマスの塩焼き。縄文人たちも、鹿、いのしし肉に劣らず魚も川からとってきて食べていたに違いありません。当時は貴重品だった塩もたっぷり振っておいしくいただきます。焚火の中には焼き芋も。さらに具沢山の鍋もありましたが写真を撮り忘れしました（泣）快晴の秋空の下でこんな食事ができるのは、現代人にとってとても贅沢なことです。縄文人の豊かな暮らしの一端を垣間見るような気がします。こんな体験ができる我々の暮らしもまた贅沢な暮らしなのかもしれません。



\* 火起こし名人？ 指導員？  
の手ほどきのもと、火おこしチャレンジ  
やはり M 氏は興味津々！  
そのうち自作の道具ができてくるかも

## ❖ 忘年会開催（12月9日）

先月の宴に続いて、一か月も経たずに忘年会。なにかにつけてイベント好きの集まりです。前回のナベの汁が多すぎた反省から、今回は適量に。若者には足りなかったかな？



\* 焚火を囲んで、単なる老人会の集まりにしか見えませんが、、、餅を焼くための火種作りの見張り??？ ということで・・・



❖ 来年度はまた3月の第一週から作業を開始する予定です。梅之木遺跡での作業内容がまだはっきりしませんので、当面は森のあそびばづくりを続けます。今年は暖冬の様相ですが、それぞれのご家族で楽しい年末年始をお過ごしいただき、来春また元気にお会いしたいと思います。